

奇妙な青春

司馬 遼太郎

え中 西 勝



その日、仕事のたてこんでいたからすこしつらかったが、この暑い日に播州の山奥からわざわざ近藤さんが出てきてくれたので、とまってもらった。

むろん、あらかじめ電話があった。家内が近藤さんとはどんな人か、ときくのである。

「学校のころの同級生やがな」

「へーえ」

家内も同級生にサンづけとは妙だと思っただけ。しかしこれは

なんでもない。もともと近藤さんははじめ私より三年上であった。先輩であったが、次第に各駅停車で落ちてきて（二年つづけて急行で落第すると退学という規則だった。近藤さんはそこはうまく落ちた）やがて私たちとおなじ年度になったのである。

われわれは大阪外国語学校という学校にいた。学科は蒙古語科で定員はたった十五名である。なにしろ成吉思汗や馬賊やゴビ砂漠にあらがれてやってきた連中だけに、いま思っても風変わりな人物ばかりがいた。

「わしや蒙古にや風呂がないと思うけん、その鍛練じや」

といって入学から卒業まで銭湯にゆかない人物もいた。ハダシで歩く男もいた。蒙古人教師が、この人は米国系の大学を出ただけにこの一群の日本人たちの不潔さにいつも眉をしかめていた。本場の蒙古人が眉をしかめるのだから、そのきたなさは推して知るべしである。

かとおもうと、牛糞をひろってきてこねまわしている男もいた。どういう科学的根拠があるのか、練っては乾かし、乾かしては練るのである。この作業の最終目的は練りあげた牛糞に火をつけることであった。

「火をつけてどうするつもりだ」ときくと、

「どうするもない。燃やすのじや」

「燃やしてどうするんだ」

「ランプがわりにして勉強するのじや」

なるほど中央アジアの遊牧民族の家庭用燃料はそれであった。

ところが、むこうの牛糞と日本の牛糞はどこか成分がちがうのかかれの貯めこんでいるそれには一向に火がつかなかった。かれはさんざん牛糞を練ったが、火がつかず、まして最終目的である勉強にまでたどりつけないままに、ついに下宿を追放された。下宿としてもこういう科学者を寛大に扱かうわけにはいかなかったのだらう。

まことに野蠻で無智で粗放な青春を送ったものであったが、それでも今日の青春とくらべて多少の慰めはある。

青春のむこうに、冒険が待っていた。それは自分自身としては人

生を賭けるに足る冒険だと信じていた。青春とは、その色彩は虚無か、そうでなければ誇大妄想狂的なものだが、われわれ誇大妄想狂の群れは、自分が蒙古高原にかけている夢が、国民の将来の幸福とむすびついたものであると信じていた。むろん是非は別である。こんにち、外国の山へ登ることが国民的栄光であると思っっているのすこしも変わらない。

ところが、国が敗れた。

われわれの連中は、それぞれ外地や軍隊から帰ってきて、もはや中央アジアの高原にゆく希望をうしない、会社員や公務員や教師になった。近藤さんも、その一人である。

終戦で職をうしない、一時は九州の炭坑夫になって働いていた。それにも飽いて姫路の友人の家にころがっていたとき、ふと「教師を求む」という新聞広告をみて、姫路の奥の中学に就職し、英語の教師をしているという。

久しぶりで会ってみると子供が好きでたまらないといったじつに滋味のあるいい教師になっていた。蒙古高原の夢を、そっくりそくなわずに、かれは山の教師のなかに生かしているのだろう。

相変らず、相当な酒呑みだったが、酔っても感心なことに姿勢をくずさない。

「えらいな」

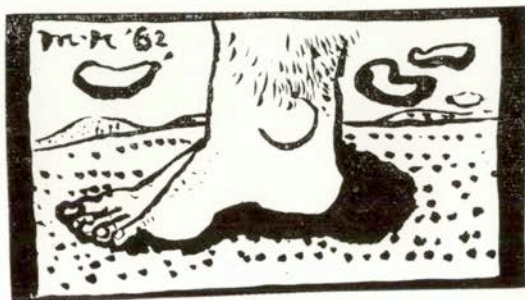
「肝臓が丈夫なんじやるか」

翌日、氏が帰ったあと、女房が妙なところに感心した。

「近藤さんは、あれだけお酒をのんでも、十数時間、すわったきりでおシッコに行かなかったわ」

ひよっとすると、この人はむかしオシッコをがまんする鍛練でもしていたのかと思ひ、ひとりおかしかった。

(作家)



④ 柴田音吉洋服店

神戸・元町通四丁目 ④ 0693

大阪・高麗橋二丁目 ②③ 2106



FUGETSUDO

秋の
ご婚礼



ウェディングケーキ
クッキース
紅白饅頭
引菓子
ゴーフル
コウベピアー
プティーゴーフル

創業 明治三十年



風月堂

神戸・元町三 TEL. 神戸 ③ 695・696



きものさろん 西店 神戸
 服飾細貨 東店 東京
 きものと細貨 新橋店 東京

おんがら屋

神戸・西店 TEL ③ 8836
 東店 ③ 0629
 東京・新橋店 (571) 0807



ZENITH
 世界最高級腕時計

ゼニット

もっとも豪華な
 もっとも気品のある
 もっとも正確な

ZENITH 美 田
 特約代理店
 MOTOMACHI-3
 TEL (3) 1798



私の好きなスター

高 美 似 子

小 林 芳 夫

最近ではテレビが伸びて映画が、何んとなく押され気味のように云われるが、これは一時的な現象だと思ふ。アメリカでもテレビが急激に普及した時、同じような現象をおこしたことがある。

しかし現在ではアメリカの映画界は完全にもちなおしている。

テレビの限界がはつきりしたためだとも思ふし、映画でなければ味わえない醍醐味がテレビには求められないことにもよるだろう。

映画の美しいカラー、また黒白映画のカメラの美しさ、大型スクリーンの雄大さは、やはり映画でないと見られない。

私の演劇好きは前に、この「神戸っ子」にも書かれていたが、映画もこれに負けない程好きである。徳川夢声が浅草で弁士をやっていた頃からのファンである。特に

時代劇がいい。亡くなった阪妻の芸が一番好きだった。

私が映画に出演したときのつきあひもあって、片岡千恵蔵、市川右太衛門、月形龍之介、女優さんでは、山田五十鈴、花柳小菊、宮城千賀子など、時代劇の名流といまも、交際をもっている。

三船敏郎の「椿三十郎」やその外一連の黒沢監督の作品での時代劇も実感にあふれていて愉快だ。だから「私の好きなスター」をといわれると困る……いまもって週に一回か二回は必ず映画を観ているんだから、好きなスターは枚挙にいとまがないということだ。

話はかわるが、私は渡米のたびに、ハリウッドに立寄る。ワーナー・ブラザー社のレロイ・フリント監督、宣伝部長の、M・ヘドリックとは昭和二十七年頃からの交

際なので、もう十年越しの知友である。ハリウッドには前後四回訪れていることになる。

このワーナー・ブラザーの女優に、高美似子がいる。彼女は非常にノープルで、淑かないい女性である。彼女の叔父は日本の船会社の船長なんだそうである。

二世ではあるが、彼女は日本の女優としてのブライドをもつていて日本人として好まない出演は絶対のことわるそうだ。

アメリカの映画の都、ハリウッドで、高美似子のこんな態度、心意気は、実に嬉しいし、見上げたものだと思ふ。私の好きなスターとして、アメリカの映画界で頑張っている高美似子に拍手を送るために彼女をあげておく。

(神戸証券取引所理事長)

神戸だからえがく夢

No.10

文・藤本義一
え・佐々木侃司

幸運の花の日

年に一度こんな日があったなら……

幸運の花娘がマチをあるきます。
みなさん一輪づつ・花娘の帽子から
花をぬいてください。花ピラのうら
に数字が少さく書いてあります。
幸運の花の日のクジ番号です。
年に一度のこの日、コーベは花でい
っぱい。
幸運の花の持主はダレでしょう。



年に一度のそんな日を……………

ローハイドのスター一行三名が寿屋の招きで来日したとき、東京会館のそれがまじめなカクテル・パーティーであったので、大阪は少し趣の変ったものをということになった。

みんなであれこれ知恵をしぼって、緑日スタイルでいこうと決まり、模擬店は(さざえのつぼやき)(たいやき)(たこやき)など、床机に緋の毛氈を敷き舞台では皿廻し、居合抜きや日本古典奇術をやるという趣向に落ちついた。

そんな意見を出したということで、ショウと出店の担当が私になり、よし、やる以上はフェイバーさんを喜ばせ、日本人たちですら懐しがるような珍らしいものをしてそのアイデア実行に闘志を燃やしたのである。

高座のほうは日本的なものばかり、割合簡単に手配できた。ところがこれこそ考えていた、八しんご細工V(米の粉をねって動物魚野菜などをつくる)などがなかなか見つからない。夜店の元締神農商業協同組合へ問い合わせてもそんな人はいるはずだが!!、どの人かそれをやっているのかわからない——という。捜しあぐねて途方にくれたが、ヒョンなことからこ

の人の住所もわかり、そのほか八山がらのおみくじ運びVと八わた菓子Vも加えて、新大阪ホテルの大ホールで型破りのレセプションが開かれたのである。主賓の三人が顔をほころばせたのはもちろんだが、年配の大阪の知名人がみんな昔を懐んで、しんご細工に列をつくった。まだこんなが残されていたのか、という感慨である。戦中派の私も、参会者の喜びように苦勞のかいがあったと一息ついたものであった。

今月は一見、神戸に縁のない話ではじまったがそうではない。戦前の神戸の夜店についていたかったからなのだ。

神戸ではいまわすか水道筋だけにおもかげは残されており、二と七の日は、七十軒くらいの店が一丁目から六丁目にかけて店を出す。ゆかたがけて、ぶらりとする人たちはいかにも一日の疲れを休めている感じ、家族づれで楽しそうである。ほとんどの子供たちが手に持っているのは、八火花Vと八わた菓子V。金魚すくいやヨーヨー釣りも夏の風物詩である。大人の人たちには、植木、それに西瓜とバナナの叩き売りのないのが淋しい。神戸の各所にもっと夜店

が出るようにならないのか。

こう書いてくると思い出されるのは戦前の東は新開地筋から西へ市電筋まで、北はタワーから南は三角公園に至る一帯の夕涼み向き散歩コースである。植木屋あり、金魚池あり、古本屋、古レコード屋、古物屋ありで、家族づれにもアベックにも一人者にも、こよなき夏の夜の楽しさを味わせたもの。これとはちよつと季節も違われし屋間だけだが、大阪市では毎年五月ごろ、緑化週間だったかに天王寺公園で植木市をやっている。デカイ庭木があるかと思えば、草花の苗や球根があったり、サボテンがあったり、宝塚沿線の池田、花屋敷、山本あたりから花園に、三十社が店を並べている。

一堺では七月末に大魚市が毎年、徹夜で賑かに開かれていり、こんなのも、植木市なら湊川公園、魚市なら須磨の浜あたりでできないものか。神戸の植木屋さんも、魚屋さんも、花屋さんも、果物屋さんも、年に一度くらいは儲けにならない商いで市民を楽しませてもらいたいものだ。

みなと祭の花自動車が大倉山の花市場で飾りつけていたのを見たことがある。あれはあれが大賛成だが、南米の花祭りやヨーロッパのカーニバルみたいにお互いが花を投げあって、街中、花でいっぱいというような日が一日くらいあってもいい。そういうえば外国ではメーデーは八鈴蘭まつりVと呼ばれていて、人はみな鈴蘭の花束を手に持ち、胸に飾り、高い香りが満ちているようだという。神戸には、そんな日がいっつかく

みなと町

こうべの印象

十返千鶴子



私が、始めて「神戸」の町を訪れたのは、ちょうどまだ娘盛りの頃で戦争中だった。その頃の東京は物資不足で何もなかったのに「神戸へ行けばまだ靴が買える」とか、「やれ、布地がある」とかいわれていた。事実、たしかにその頃の神戸には、東京にない品がいくらかまだ残っていたのを憶えている。

その時に受けた「神戸」の印象は忘れることができない。——山から海までのたたづまいのきれいなこと、トア・ロードのおっとりとした、なだらかき——など特質のある町並だったのに、本当に外国へきたような印象を受けた。そして静かでない雰囲気のある町「神戸」が、横浜によく似ているなあと感じました。

もっとも横浜は平面ばかりで、山手といえは、わずかに外人墓地のある一カ所だけ（そこがまるで横浜の名所になっているような馬の背みたいに細くこんもりと盛りあがっている所がある）で、ここからは横浜の港が眺められる。ところが、これに対して神戸は、平面じゃなく山の傾斜が実に美しく、トア・ロードなどの坂道は、道幅が広く、その両側には静かなジャレた店がいつぱい並んでいて、元町におりてくると、いくらか賑やかになる——と、いったような何かキレイな印象が強かった。

戦後、神戸には、三度きている。

その一回は、終戦後に日航が開通したときで、雑誌社の仕事で日航とタイアップして全国を取材してまわったときに立ち寄った。この時は、神戸といっても御影などの住宅街方面だった。次ぎに訪れたのは今から三年前、この時は神戸新聞の仕事で招かれた主人（註、評論家の十返肇氏）と一緒に旅だった。

主人は仕事だったが、私は、かって娘時代に受けた神戸の印象があまりにもよかったので、機会があれば、戦後の神戸をゆつくり訪ねたいと思っていた矢先きのことで、新婚旅行のやり直し（？）をかねての楽しい旅を実行したわけだが。——

当時、学芸部長をしてらした青木氏の案内で、朝の六甲山を車で見学、帰りには北野町から異人館の立ちならぶ山本通周辺をまわったが、娘時代に受けた町の印象は戦災という悪魔によってすっかり変えられていた。

でも明治の頃の建物が残っている異人館のある山手辺りが、ユトリロの絵のようにキレイで、それこそ本当に異国情緒というものが、ここにだけ残っているのだ——という感じを受けた。

京都、奈良は別としても、息吹きをしている都会は、いまどの都会も近代建築というか、コスモポリタンみたいになっている時だ。そこへゆくと神戸には、そうした情緒が、まだまだ残っている。これはやはりなんとかして残しておいてほしいと思う。こうした異国情緒とは別に、また神戸には、映画「望郷（ペペルモコ）」に出てくる「シーン——ジャン・ギャバンが、坂道をタッタツと下りてカスバに入っていくシーンがあったが、そうした場所が、ヒョットしたら神戸にもあるかも知れない——というスリリングな感じを抱かせるところもある。アルジェにも似てるといわれるように、太陽がキレイで、後ろに連なる山々は、赤松と白っぽい土がうまくとけあってとても明かるい。

このように神戸は、白っぽい土と赤松、異人館、この三つを並べただけでも、それは絵画的で、「ユトリロの絵みたいだ」と聞いていたがほんとにそうだと思った。



十返千鶴子さんのこと

だから画家の小磯良平氏などは、神戸を離れることが出来ないのではないだろうか。おそらくフランスで絵をかいた方たちは、東京よりも神戸の方に画材が多くあることだろう。

私自身、「ほんとうに、神戸に住みたいなー」と思った。またその時、主人とも

「まあ、生活するには東京だが、老後、死ぬまで静かな生活を送るんだったら、神戸ってところは、住みよいいいところ」だな」と、しみじみ話合ったものだ。

三度目に神戸に来たのは、ついこの間、八月二日のこと。神戸新聞主催の「神戸夏期大学」に講師として招かれたもので、BGの解剖のテーマで、働く女性の現在と将来について、その含んでいるいろいろな問題を取りあげて講演した。

たくさんの若い女性が、熱心に聞いて下さったが、この時には、神戸の女性は、なんて色彩感覚がいいんだろう——と感心させられた。町を歩いている人をみてもくたびれたという感じの人はなく、みんな足もとがスッキリしていた。古くから「みなと町」としてつちかわれてきた色彩感覚というものが、神戸の町全体の雰囲気を買って洗練されたものにしてきているのだろう。

とにかく男女、老若をとわず、身のこなしが洗練されている神戸を再認識させられた。

東京生まれ、駿河台女学院卒。

長らく雑誌「婦人画報」の記者として活躍していたが、最近評論家に転身、社会時評、スポーツ、科学などと幅広い方面で大活躍をしている。ご主人は文芸評論家で知られる十返千鶴氏。四十一歳。小柄だがなかなかのファイターで、歯切れのよい話し振りと人さわりのよさにはかつてベテラン記者だっただけにさすがは——と思わずものがある。

現住所 東京都新宿区下落合一ノ二八八

花時計

野球王国

青木重雄



今日の日本の野球熱はまったくすごい。プロ野球が行なわれる間は、ほとんどの家の主人はナイターにうつつを抜かずばかりか、家でテレビを見ていても、こどもたちとのダイヤル合戦でいつもひと悶着を起こしている。おかげで各球団のスカウト合戦もこのところシノギをけずり合っている。東映の尾崎投手が予想以上の好投をしたことから、よけいに十代選手への関心が深まってきた。すでにファイナーレーに近づいたセ・パ両リーグとも、勝敗の帰すうは見えており、残る問題は来年度への対策だ。各スカウトは各地に派遣されて、未来の利器を物色中だが、兵庫県でも姫路の城北高校に身長一

・八六メートルのすごい少年投手がいて、さかんに各スカウトから誘いをかけられているそう。尾崎ほどの幸運と実力の兼ね備わった十代選手はそうザラには出ないだろうが来年はどんなすばらしい新人が出現するだろうか？ ファンのこれからの大きな期待の一つとなった。島崎敏樹博士は「生物としての人間の最盛期は十五才から二十五才まで。それ以上は技術と芸の力でカバーする」といっているが、「超A級新人」と「ベテラン古豪」との対決が今後のプロ野球の最大の魅力の一つとなりそう。

(神戸新聞調査部長)

レリーフ

クラシックギタリスト

松田二朗



ふさふさとした髪。目がねの奥に柔和な目。飾り気ないものやわらかな人柄だが、ひとたびギターを手にすると、柔和な目は異様な輝きを帯び、シャープな手さばきに烈しい気迫がこもる。彼の音楽熱が完全燃焼する瞬間だ。彼松田二朗は、神戸大学経済学部出身のインテリという芸能界の変わり者だ。MBSリサイタルで認められたり「ギターの友」誌で新人音楽賞を獲得したりしていたが、三年前に來日した世界的ギタリスト、セゴビアに見出されたのは好運。いや見出されるべくして見出されたといえる。一昨年セゴビアに招かれて渡欧、スペインなどギターの本場でセゴビアらの教えをうけ腕をみがいてこの春帰国。その成果を問うリサイタルの結果、カカド

がとれてぐっとスマートな演奏になった」ともつばらの評判だ。しかもハッタリのない理詰めの演奏にゆとりと幅が出てきて、数少ないクラシックギタリストの新進として、属望されている。「ギターという楽器がこんなに大衆的なのに、音楽学校にギター科がないのは片手落ちだ。大衆的ながゆえに低俗視されているようなところもある。これではギターの健全な発展は望めない。こんな演奏活動を通して、ギターの正しい認識を広めたい」というのが彼の不満と抱負。自宅で教習所を開く一方、KCCのギター教室に顔を出して後進の指導にも余念がない。

(草野)



PELO

CRAVATS
MADE IN
WEST
GERMANY



西ドイツ製
ペロタイの新輸着

ネクタイの
元町バザー

神戸・元町



紳士服飾・婦人服飾

セリザワ



紳士服飾 / 大丸 前③-3900
婦人服飾 / 大丸 前③-1695
婦人服飾 / 三宮セーター街③-6114

真珠を愛する人は
真珠の美しさを持った人

タサキのパールを選ぶ人は
ホントに真珠を愛する人

田崎真珠

神戸・三宮駅前・新聞会館・秀品店

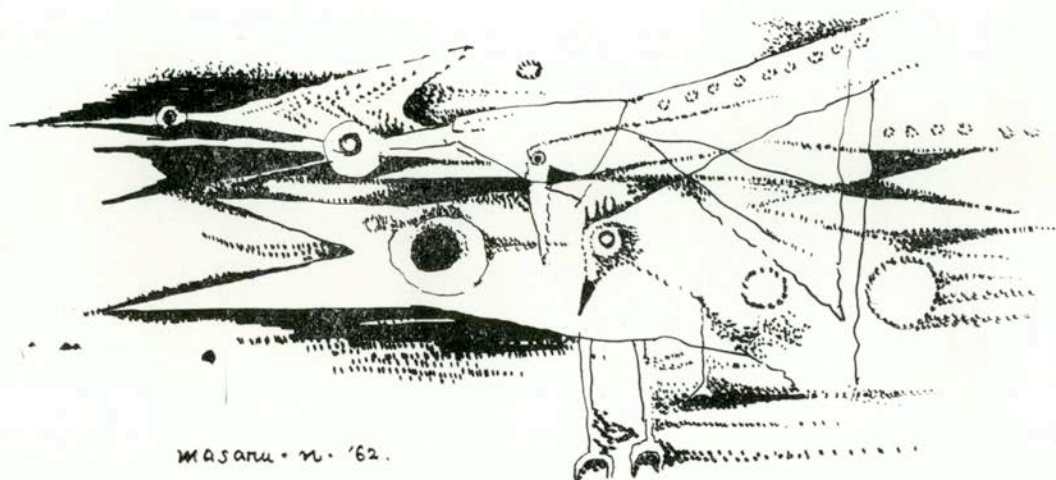
TEL (22) 5646

★'62 ミスインターナショナル・ビューティ・コンテスト参加 ミス・スイス

(田崎真珠本社にて)

AUTUMN
E A Z O N S

青くつめたい秋空
その光を縫って
山から海へ
海から山へ飛ぶ
限りなく飛ぶ鳥
紫の雲に浮かぶ島
六甲須磨の緑青
その間に
モダンな神戸が
ゆるくひろがる



MASARU • n. '62.

AUTUMN
MODE



△パリ通信から▽

今秋のモード

福 富 芳 美

今月は、さる七月末に開かれたパリコレクションから
「今秋のモード」を紹介してみましよう。

目 立 つ 紫 系 統

まず色ですが、落ちついた色としてはグレーが多く、
今年濃淡のグレーが登場しています。また白は白でも
にごった白から、濃い赤味がかったベージュ、そして豊
かな茶系統、美しい赤……などですが、とくに今年紫
が出てきたことが目立ちます。

生地は、ツイード、ジョーゼット、それにポリウラム
のあるプロケードなどで、このほか光るもので刺シユウ
をしてあるものが多いようです。

また革と毛皮が使われているのもこれまでと変わって
いないようですが、とくに毛皮には染めと模様が入って
いるのが今年の新しい傾向といえそうです。

配色は、やはり黒が主流で、コートと帽子は黒で、ア
クセサリーを他の色で持っていくといった具合です。

その配色の例を挙げてみますと
黒と白、黒と赤、黒とタバコ色……といった取り合
わせがされています。

今秋のシルエットはハイウエスト・ルック

ディオールのお店では、ハイウエストにポイントをもつ
てきています。コート、スーツを問わず高めにボタンを
つけ、袖は細くて長い、スカートはすてひろがりて日本
人に似合いそうなデザインです。

デザインでとくに目立つのは、スーツのジャケットが
長くなったことです。そしてそれに柔らかなベルト——
共布や別ベルト、革ベルト、サッシュなどを使っていま
す。

スーツのスカートは、後ろをプレンにして、前にポ
イントがおかれています。このように今秋のシルエット
は全体には、ちょうど弓の矢を射る時の張った形を想像
なさってください。後ろはプレンで前はスカートにも
胸にもポリウラム感のある「リーニューフレイシユ」ライ
ン——といってソフトな女らしさを強調させたラインで
す。

アクセサリーでは、ダチョウの羽が帽子の飾りに多く
使われており、フリンジの飾りもますます多く扱つかわ
れているようです。

とにかく今秋のモードは、パリだけでなく、イタリア
のコレクションにも見られる共通した傾向としていえる
ことは、落ちついたシックな色彩が多く、デザインもソ
フトな女らしさを強調している——ということがいえる
ようです。

したがって男物にしても、流行は女性のそれと平行す
るという常識からいって、今秋のネクタイやスーツはや
はり「シックなもの」が多くなってくるでしょう。

神戸ドレスメーカー女学院長

(一九六二年秋のコレクション、福富大丸問

デザイナー・パリ通信より)

'62 秋から冬のニコーヘア・モード オリンピアライン



マキシム美容室神戸店
Maxine Beauty Shop

神戸・三宮神社前三上ビル3階 電 3,4917

あみものモード
*初秋に着る



● やわらかさを強調
かるいムードにつつまれたやわらかい若草色をレ
ス織みにしたエレガントなツイード。
ドロップショルダーは十分ギャザーのあるランタン
スリーブと、V字型にカットされたネックラインが、
女性らしい柔かさを強調しています。

不二あみもの学院

院長 藤岡文枝



AUTUMN
SHOPPING

さわやかな秋
シックな
ムードと
美しさを
たのしく
おくる店
秋のお買物は
ハイセンス
の店で
おえらび
ください

写真は左より/ナショナル
のステレオ(元町電機)ス
テンドガラスのスタンド
(イクシマヤ)白地のシル
クワールに刺しゅうされた
布地(トレイ洋装店)女
の子フランストリコーサー
のテリガルスーツ(エスタ
ーニエートン)スウエード
のバック(イクシマヤ)秋
の子エック男子用シャツと
クツ下(フナキヤ)リンシ
ヤンの背広(サカエ)



創作ハンドバッグ

アサセサリとエッセ品

イクシマヤ

元町一 (3) 二四二五〇六

紳士洋品の店

サカエ

元町二 (3) 五二二二

株式会社 三栄電機

トートン洋装店

新聞会館1階 2二八一八

男子洋品の店

フナキヤ

元町三 (3) 三六八七

あらゆる電器製品の店

元町電機

元町六 (4) 三〇一〇五

輸入婦人服地雑貨の店

エスタール

ニユートン

トア・ロード の一八二八